

# 民生委員児童委員と地域課題の意見交換



平成30年11月16日、市コミュニティセンターで民生委員児童委員協議会の代表委員13名と議会懇談会を行いました。

今回は協議会に対して「東松島市に居住して不自由および不足に感じる」と「市政に関しての自由意見」という二つのテーマで事前にアンケートを実施し、協議会から寄せられた38項目の質疑事項に議員が回答しました。

議会側からは阿部勝徳議長と広報常任委員会委員が出席しました。

会議は熊谷昌崇委員が司会を務め、阿部勝徳議長のあいさつに始まり、櫻井政文副委員長から市議会について紹介、出席委員のあいさつ、事前質疑に回答、自由意見の交換、小野幸男委員長の閉会のあいさつの流れで進行了しました。

答弁に関しては質疑事項を所管している常任委員会代表の熊谷昌崇委員（総務常任委員長）、上田勉委員（民生教育常任委員長）、大橋博之委員（産業建設常任委員長）が主に務めました。

民生委員児童委員から「各地区センターの老朽化」「高齢者中心の買い物難民」「集団移転団地のコミュニティの形成」「子育て世代の移住に影響する当市の学力低迷問題」などの多様な意見が提議され、活発な議論がなされました。

普段から住民と密接に接している民生委員児童委員ならではの意見を拝聴し、大変、有意義な懇談会となりました。ここでは、質疑事項を抜粋して掲載します。



▲阿部勝徳議長、開会あいさつ  
日頃の活動に敬意を表しました



▲小野幸男委員長、閉会あいさつ  
活発な質疑、意見交換に感謝

## テーマ1 東松島市に居住して不自由および不足に感じる

質疑事項	回 答
<b>地区センターの老朽化</b> 日頃の活動に不便。耐震性も確保されていない。水没地域にセンターがある。各施設の見直しが必要。	実は、どの地区センターも老朽化している。3線堤はシミュレーション済みなので、まずは、避難することを考えてほしい。予算の関係もあり、年次計画を立て、順次検討。 9条交付金があり、建てやすいが、維持費がない。少子高齢化で、人口が減るということは、税収も減るとのこと。今のペースでいくと、10年後には、東松島市が財政再建団体になるかもしれない。財政再建団体になってしまうと、例えば、ごみの収集も週2回から月1回になるかもしれない。 総務常任委員会でストックマネジメントについて所管事務調査を行った結果、東松島市は、岩沼市と比較して、3倍から4倍多くの集会所があることを把握した。沿岸部は、復興予算で地区センター等の整備について対処してきたが、内陸部はそのままなので、今後、維持管理が必要になってくる。旧鳴瀬町は、地域で維持していた。今後、平成32年度以降、復興予算がなくなり、現状維持を市でするのは難しい。 統合も含めて、新しい建物を市でつくり、維持費は地域で持つという形をとらないといけないということを考える時期に来ており、所管部署には、地域の声を聞くように促している。
<b>防災無線の事後放送について</b> 火事の出火や探し人の協力依頼等の放送はあるが、鎮火や見つかった等の事後の放送がないのでしてほしい。	基本、火災等の消防団員の招集に使用する。また夜間の放送だとうるさいと感じる方がいる問題もある。夕方5時の放送もうるさいという方がいるのも事実。しかし、起きていれば気になるものなので、担当課には伝える。 火災等の防災行政無線は、消防団員招集のために行っている。市民の皆さまへの災害に関する情報は、自動音声による消防テレホンサービス（0180-992-911）をご利用いただきたい。（開催後、所管課調査内容）
<b>公共交通</b> 交通の便（公共のバス等）をよくしてほしい。「らくらく号」について、土、日、休日の運行は稼働できないものか。	「らくらく号」は、7台で運行している。すぐ対応可能かは分からないが、要望があったことを伝える。 昨年度、『地域公共交通網形成計画』を策定し、今年度中には当該計画を具体化した『地域公共交通再編実施計画』を策定中である。「らくらく号」の今後のサービスの拡充については土曜日の病院の診療等に対応すべく、運航を検討している。（開催後、所管課調査内容）
<b>老人ホームについて</b> 他市町村では安く入れる施設があるようだが、東松島市でもできるだけ安く入れる施設を考えてほしい。	「安く入れる施設」とは、特別養護老人ホームだろうか。去年から地域包括支援センターが東部に加えて西部でも立ち上がっている。地域包括ケアシステムについて、福祉課、社会福祉協議会と一体となり考える必要がある。今年も民生教育常任委員会で調査したい。